

大磯町では、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省「令和3年度全国学力・学習状況調査」を令和3年5月27日（木）に実施しました。（※国府中学校は6月2日（水）に実施。）

本調査は、小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象としたもので、大磯町は小学生237名、中学生129名が参加しました。（※児童自立支援施設おおいそ学園内にある大磯町立国府小・中学校生沢分校に在籍する児童・生徒も含む。）

令和3年8月31日（火）に文部科学省からの調査結果公表を受け、令和3年度大磯町「全国学力・学習状況調査」結果分析・活用検討委員会を組織し、大磯町における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析してまいりました。このたび、調査結果の報告がまとまりましたので、次のとおりお知らせいたします。

大磯町の【特長】と（課題）

【特長】『大磯町では、児童・生徒は、必要な資質・能力を身に付けています』

⇒教科に関する調査の結果から、大磯町は全国及び県の平均正答率をやや上回るということがわかりました。このことから、大磯町の児童・生徒は必要な学力を身に付けていると言えます。また、児童・生徒が日常的にICT機器を活用し、着実に情報活用能力の基礎を固めていると言えます。

（課題）『児童・生徒の学習活動を適切に評価し、学びに向かう力を涵養する必要があります』

⇒新しい学習指導要領を踏まえ、大磯町では、教師が一方的に知識を伝達するだけの授業ではなく、習得した知識をもとに、児童・生徒がそれをどのように活用し課題解決を図るのか考える授業を目指しています。児童・生徒が自分で学習を進めていく意欲やスキルを行動面から積極的に評価することで、学校に行くのが楽しい、勉強をすることが楽しいと感じる心をさらに育むことが求められています。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意して、教育施策・教育活動の改善に努めてまいります。保護者・地域の皆様には、大磯町の児童生徒の健やかな成長のため、今後も学校教育へのご理解とご支援をいただくとともに、折に触れて児童・生徒を褒め、自己肯定感が高まるように御協力くださるようお願いいたします。

1 教科に関する調査の結果から

【小学校国語】

今回出題された学習内容について、大磯町では、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較しても、児童に対して身に付けさせるべき学力について指導していると言えます。一方で、全国的な傾向と同様に、「読むこと」の記述の問題や「言葉の特徴や使い方に関する事項」の一部については、やや課題がみられました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none">・ 目的や意図に応じ、資料を使って話す。・ 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。・ 資料を用いた目的を理解する。	<ul style="list-style-type: none">・ 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。・ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。・ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・ 文章全体を正確に読み取り、目的に応じて必要な情報を選択できるような指導を行っていく。
- ・ 文章を繰り返し読み、キーワードや中心となる語や文を見付けて要約する活動を多く取り入れていく。
- ・ 主語と述語、修飾語と被修飾語の関係を捉え、言葉を詳しくしている修飾語に着目させるような指導を行っていく。

【小学校算数】

今回出題された学習内容について、大磯町では、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較しても、児童に対して身に付けさせるべき資質・能力について指導していると言えます。一方で、全国的な傾向と同様に、解の求め方について説明をしたり、記述したりする力には課題があります。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none">棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取ることができる。速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。条件に合う時刻を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none">複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

<ul style="list-style-type: none">基礎・基本の定着を図るとともに、既習の知識をもとに発展的・応用的に考えたりする活動や、考えたことなどを表現したり、説明したりする活動を授業に多く取り入れていく。
--

【中学校国語】

今回出題された学習内容について、大磯町では、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較して、生徒に対して身に付けさせるべき学力をきちんと指導していると言えます。但し、全国的な傾向と同様に、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の一部については課題が見られました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none">・ 話合いの話題や方向を捉える。・ 質問の意図を捉える。・ 文脈に即して漢字を正しく読む。	<ul style="list-style-type: none">・ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の關係に注意して書く。・ 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

<ul style="list-style-type: none">・ 文章を推敲する際には、読みやすく分かりやすい文章にするために、語句や文の使い方、段落相互の關係に注意して文章を整えることができるような指導を行っていく。・ 読む目的に応じて、ものの見方や考え方が表れている部分を明確にしたうえで、自分の考えをもてるような指導を行っていく。
--

【中学校数学】

今回出題された学習内容について、大磯町では、ほぼ全ての問題で全国及び県の平均正答率を数パーセント上回っていました。大磯町の学校は、全国や県と比較して、生徒に対して身に付けさせるべき学力をきちんと指導していると言えます。一方で、全国的な傾向と同様に、解の求め方について説明をしたり、記述したりする力には課題があります。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none">・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。・ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる。・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。	<ul style="list-style-type: none">・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。・ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見出し、それを数学的に表現することができる。・数学的な結果を事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする活動を授業に多く取り入れていく。

2 児童生徒質問紙調査の結果から

【小学校】

「5年生までに受けた授業でコンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という質問に対して、53.2%の児童が週1回以上使用したと回答しました。これは、全国及び神奈川県の数値と比較しても高い水準となっており、大磯町のGIGAスクール構想が着実に進展している成果であると言えます。

「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」、「5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えてしまったか」という質問に対して、80%以上の児童が肯定的な回答をしました。新学習指導要領の核である主体的・対話的で深い学びを支える基礎が固まってきていると言えます。

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という質問に対して、22.7%の児童が1時間以上読書をするという回答をしました。学校図書館が核となり、読書活動を推進してきた成果と言えます。

その一方で、「学校に行くのは楽しいと思いますか」、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていると思いますか」という質問については、肯定的な回答が神奈川県、全国と比較してやや低い結果となりました。

児童の興味・関心を引き出す授業づくりに努めるとともに、特別活動等の授業を通じて、自治能力を高める指導を行っていきます。

【中学校】

「1・2年生までに受けた授業でコンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という質問に対して、59.7%の児童が週1回以上使用したと回答しました。これは、全国及び神奈川県の数値と比較しても高い水準となっており、大磯町のGIGAスクール構想が着実に進展している成果であると言えます。

「1・2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」、「1・2年生までに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えてしまったか」という質問に対して、80%以上の生徒が肯定的な回答をしました。

その一方で、「自分には、よいところがありますか」という質問については、肯定的な回答が神奈川県、全国と比較してやや低い結果となりました。

生徒に対して自己肯定感が高まっていくような指導の充実を図るとともに、特別活動等の授業を通じて、社会参画の意識を高める指導を引き続き行っていきます。

3 家庭や地域の皆様にお知らせしたいこと

- ・児童生徒質問紙の質問への回答状況と各教科の調査結果を比較すると、次のような児童生徒に、全ての教科で平均正答率が高い傾向がみられます。(必ずしも因果関係を示したものではありません。)

【小学校】

- 自分で計画を立てて勉強している。
- 授業の予習・復習をしている。
- 地域の行事に参加している。
- 授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う。
- 授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。

【中学校】

- 社会の出来事に関心がある。
- 問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。
- 授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。

4 大磯町教育委員会から

町教育委員会では、本調査の分析結果を各学校に提供しました。学校では、町全体の結果をもとに、各校の詳細な結果の分析と考察を進め、成果と課題を明確にしました。今後の教育活動において、成果についてはさらなる充実と、課題については全校挙げての解決に取り組んでまいります。

今回の調査結果から、町は全国・県と同程度の学力を児童・生徒へ概ね指導できていることが明らかとなりました。その一方で、教科の領域によっては課題が見られる内容もありました。これについては、全ての教員が真摯に受け止め、改善に向けて取り組んでまいりたいと思います。

町教育委員会では、平成25年度から4年間、神奈川県教育委員会より「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」を受託し、研究を進めてまいりました。そして、この成果を一時的なものとしてせずこの先も継続させていくために、平成29年度から「大磯学びづくり研究推進事業」を拡充し、町内の全小・中学校が研究推進校として、様々な研究・研修会を企画及び実施することを通じて、教員の資質向上と共に日常の授業の改善・充実に努めているところです。

また、「日常授業の改善・充実のための幼・小・中相互訪問事業」を立ち上げ、校種の異なる教員が校区の園・学校を訪問し、普段の授業を見せ合いながら、授業づくりについて考える機会

を整えております。今後も新学習指導要領を踏まえた授業改善に向けて、町教育委員会としても、全ての学校・教職員に対して必要な研修等の機会を設けていくとともに、必要な支援を行ってまいります。

最後になりますが、町は平成 27 年に大磯町教育大綱を策定いたしました。その基本理念である、「いのち」「こころ」（～自らの可能性を求め、新しい時代を心豊かに生きる人づくり～）を輝かせる三つの力（「知力」「体力」「共感力」）の育成を目指していくために、教育委員会と学校は、家庭や地域との連携を図り、協力をいただきながら、未来を生きる大磯町の子どもたちのために必要な力を育成していきたいと思っております。今後も学校教育へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。